

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 無形文化遺産伝承事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光文化スポーツ部文化伝承課伝統文化係 電話番号：058-272-1111(内3147)

E-mail：c11148@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,967 千円 (前年度予算額：5,152 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,152	2,576	0	0	0	0	0	0	2,576
要求額	3,967	0	0	0	0	0	0	0	3,967
決定額	3,967	0	0	0	0	0	0	0	3,967

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

ユネスコ無形文化遺産に登録された「本美濃紙」の後継者育成、技術伝承について、現在「本美濃紙保存会」会員が6名と危機的な状況にある。また、ユネスコ無形文化遺産に登録された「山・鉾・屋台行事」の祭保存会に関しては、共通して少子高齢化による祭の担い手不足・後継者不足により、伝統を守り、これまで引き継がれてきた祭行事を正しく継承していくことが困難な状況になりつつある。

ユネスコ無形文化遺産登録を契機に、県として後継者育成及び技術伝承のために必要な事業を推し進める必要がある。

(2) 事業内容

無形文化財保持団体が実施する後継者育成事業に要する経費に対し、当該市の補助する額の一部を補助 (間接補助)

①伝承者の独立支援：独立のための用具の購入費等

②伝承者の育成：指導者謝金、研修手当、会場費

原材料費・研修のための用具の購入費

研修場所賃借料等

③関連技術者の育成：指導者謝金、研修手当

技術者研修会への参加

原材料費・研修のための用具購入費

④その他、文化遺産等の技術伝承に要する経費として知事が認めるもの

(3) 県負担・補助率の考え方

ユネスコの無形文化遺産に登録されている「本美濃紙」（美濃市）及び「山・鉾・屋台行事」（高山祭屋台行事、古川祭起し太鼓・屋台行事、大垣祭の軸行事）、「風流」（郡上踊、寒水の掛踊）について、無形文化遺産保存修理事業費補助金とは別に、無形文化財保持団体が実施する後継者育成事業に要する経費に対し、当該市町村の補助する額の一部を定額補助するもの。補助率は、総事業費の1/2かつ市の補助額と同額を上限。

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	3,967	無形文化遺産伝承事業費補助金 伝承者の独立支援、伝承者の育成、関連技術の育成 他
合計	3,967	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

安定的な伝統技術の伝承体制を維持するために、継続的な財政負担が必要。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	無形文化遺産伝承事業
補助事業者(団体)	市町村 (理由) 市と保存会が一体となり、技術と祭り行事を確実に伝承していくため、県が当該市に対して間接補助を行い、市負担を軽減することで伝承を進めるため。
補助事業の概要	(目的) 後継者の育成 (内容) ①伝承者の独立支援 ②伝承者の育成 ③関連技術者の育成 ④その他(大会への補助)
補助率・補助単価等	定率 (内容) 総事業費の1/2かつ市の補助額と同額を上限 (理由) 適切な無形文化遺産の伝承のため、県と市で全額補助することを前提とした額としている。
補助効果	技術の伝承及び後継者の育成を行うことで、確実に技術と祭りが伝承される基盤づくりを進める。
終期の設定	終期令和10年度 (理由) ユネスコ無形文化遺産を保存・伝承するための後継者を指導する人材を育成するため。

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>ユネスコ無形文化遺産に登録されている「本美濃紙」、「山・鉾・屋台行事」(高山祭屋台行事、古川祭起し太鼓・屋台行事、大垣祭軸行事)、「風流」(郡上踊、寒水の掛踊)についての、後継者育成事業や用具の費用に対する補助を行うことで永続的に本文化財を伝承する体制を維持する。</p>
--

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (H26年度末)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R10)	
					達成率	
①後継者の育成 研修参加者延べ	200	2,695	2,700	2,800	3,000	107%

(これまでの取組内容と成果)

令和5年度	<p>・取組み内容と成果を記載してください。 本事業により、本美濃紙の伝承者育成事業が継続して行われ、きめ細かい指導ができています。各祭りで技芸の稽古・指導がおこなわれ、祭ではその成果を披露し、滞りなく実施できている。</p>
	指標① 目標：3,000人 実績：2,466人 達成率：82%
令和6年度	<p>・取組み内容と成果を記載してください。 本事業により、本美濃紙の伝承者育成事業が継続して行われ、きめ細かい指導ができています。各祭りで技芸の稽古・指導がおこなわれ、祭ではその成果を披露し、滞りなく実施できている。</p>
	指標① 目標：2,500人 実績：2,695人 達成率：107%
令和7年度	<p>令和9年度当初予算にて追加</p>
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>本美濃紙を伝承する保持団体「本美濃紙保存会」の会員数は、事業開始時の平成28年度と比較すると微減し6名だが、自身の工房を構える会員数は微増している(工房数5軒、工房を構える会員6名)。工房を構える会員数の増加は技術を伝承する上で必要性が高い。研修者・研修生合わせての数は10名を維持している。また、各祭を伝承していくためには、継続的に伝承事業を実施する必要がある。</p>
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価) 2	<p>本美濃紙伝承事業については、一定の事業効果はあらわれているものの、さらなる事業の拡充が求められる。また、祭り伝承事業については、継続して充実した事業内容にすることが求められる。</p>
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	<p>技術の伝承及び後継者育成が促進できるよう、新たな紙漉きの研修生を募っている。また、祭り伝承事業を含め、事業内容を吟味し、県と市と保存会が連携して事業効果を高めている。</p>

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 後継者不足や指導者不足は深刻であり、伝承のためには保存会会員や祭りの担い手の増加や技術の伝承が必要不可欠である。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ユネスコ無形文化遺産を支援する事業は本事業のみであり、その必要性は高い。後継者を育成するには非常に長い年月が必要なため、継続的な支援が必要である。</p>
